

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 11 月 14 日 9:05AM 更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 46,000～52,500 円

### [NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 46,000～48,000 ドル  
(S&P500) 6500～7000

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 24,500～26,200  
(ナスダック総合) 22,500～24,000

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～155.500 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

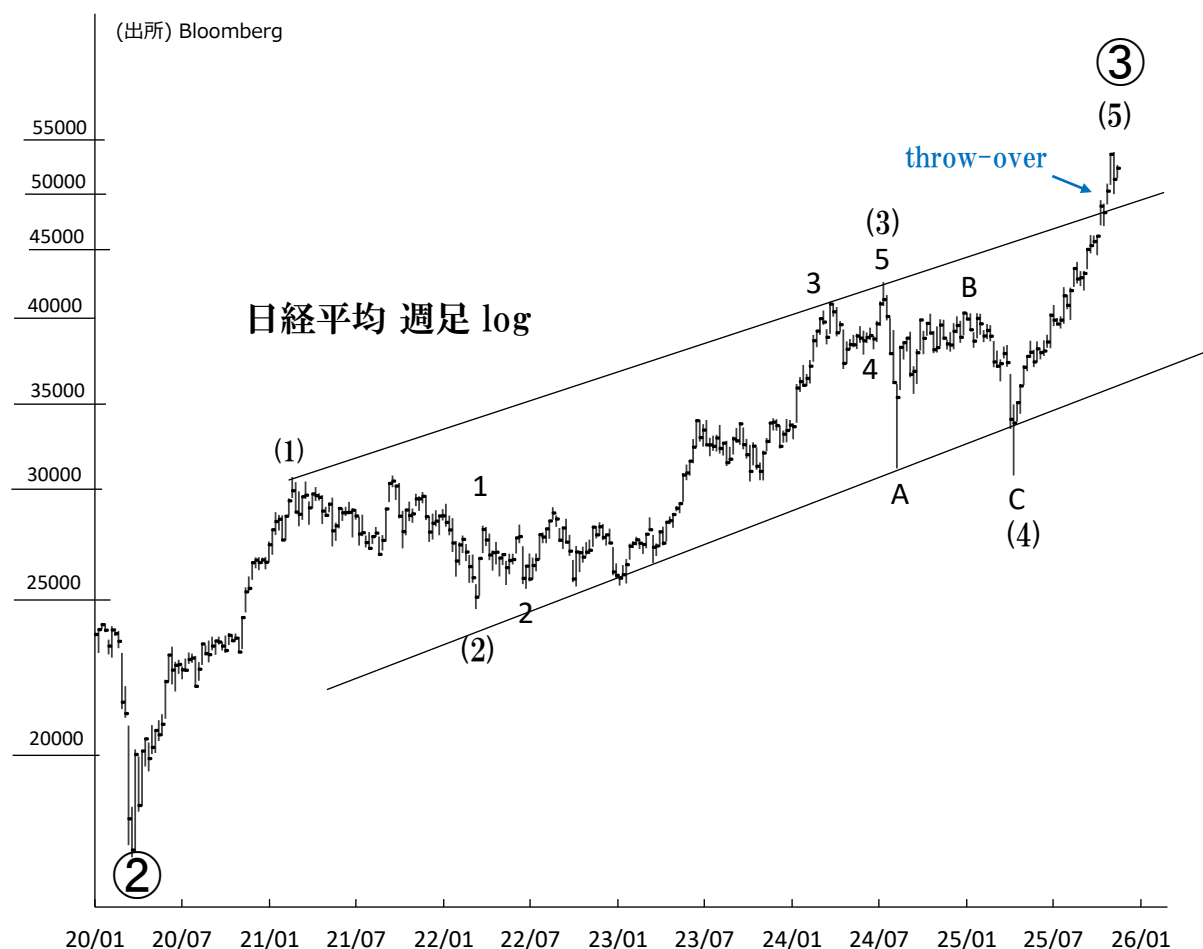
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

## 日経平均



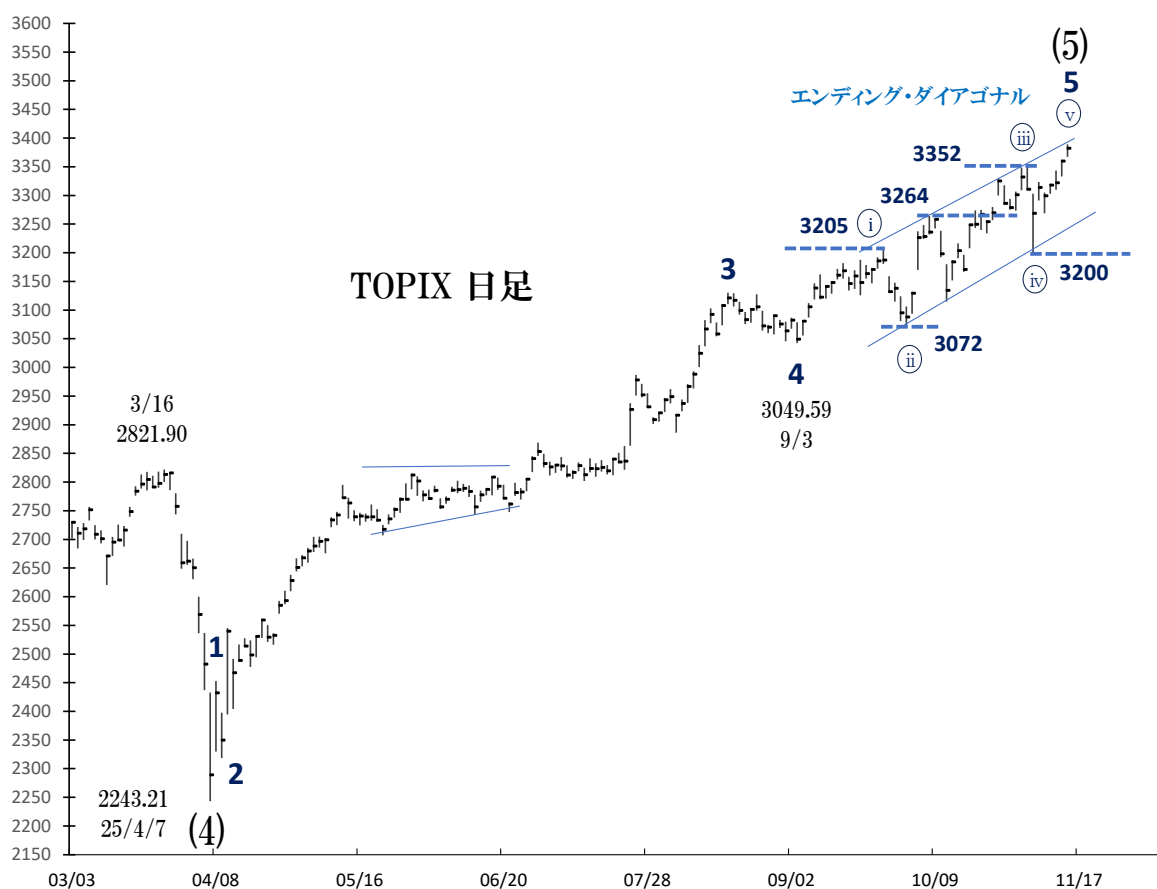
### 【週足 エリオット波動分析】

今年 4 月 7 日安値(30,792.74 円)からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底(16,358.19 円、20 年 3 月)からのプライマリー第③波は完成します。

10 月以降の足は、21 年 2 月以来の上チャネルライン水準を上回っています。このような強い動きは、強気相場の最終最後の局面における吹き上がり＝スローオーバー(throw-over)とみられます。

最高値 52,636 円を付けた 11 月 4 日は、4 月 7 日週から 30 週目でした。週次トレンドは半年(26 週)程度で一巡することが珍しくありません。ピークアウトのタイミングとして適当であり、もし天井を付けたのなら、当面 2026 年 2 月頃(※)まで下押しへの力が働き続けるでしょう。

(※)週次サイクルの間隔(安値から安値)は 42 週程度です。これによると、現行サイクルの終了は、今年 4 月 7 週から 42 週程度を経過する 2026 年 2 月頃と想定できます。



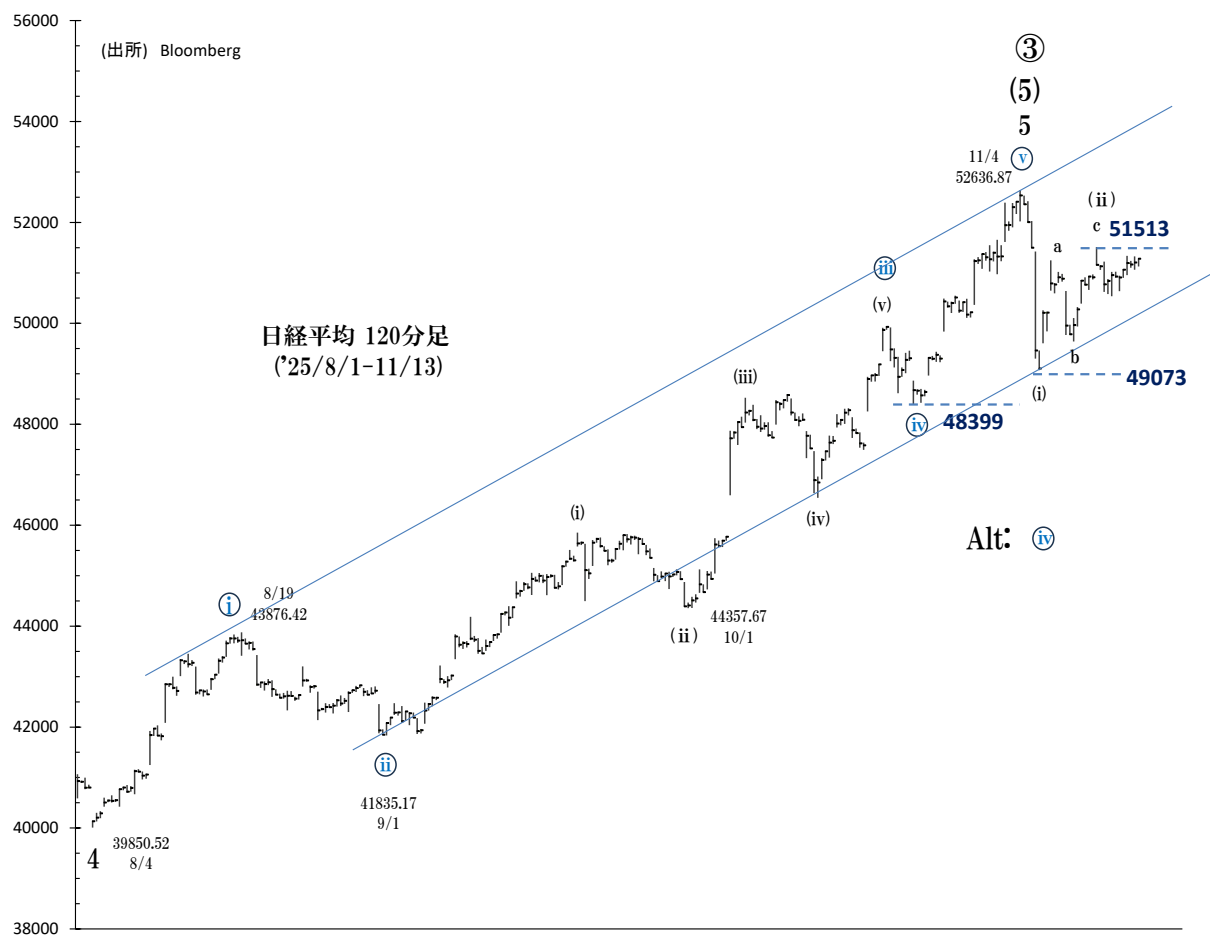
#### [TOPIX]

9 月安値(3042)からの上昇波は、4 月からの上昇トレンド中第 5 波とカウントされます。この第 5 波内の副次波には重複が目立ち、「エンディング・ダイアゴナル」としての特長を備えています。

3200(11/5 安値)からは、第(5)波の第 5 波のマル v 波とカウントされますが、この見方に基づくと、強気相場は最終最後の局面を迎えているとみられます。

3200 を終値で下回ると、上昇トレンドの終わりと調整局面への基調転換が鮮明になるでしょう。

ひとたび調整がスタートすれば、まずは 3049(ダイアゴナル始点)まで速やかに下落する展開が想定されます。



## [日経平均]

39,850 円(8/4 安値) 以来の上昇はマイナー級・第 5 波です。

46,544 円(10/14 安値) 以来の、第 5 波中マル v 波による上昇波は、52,636 円(11/4 高値) を以て終わったと思われます。

49,073 円(11/5 安値) は第(i)波の安値、そこからの上昇は第(i)波によるリバウンドとみられます。

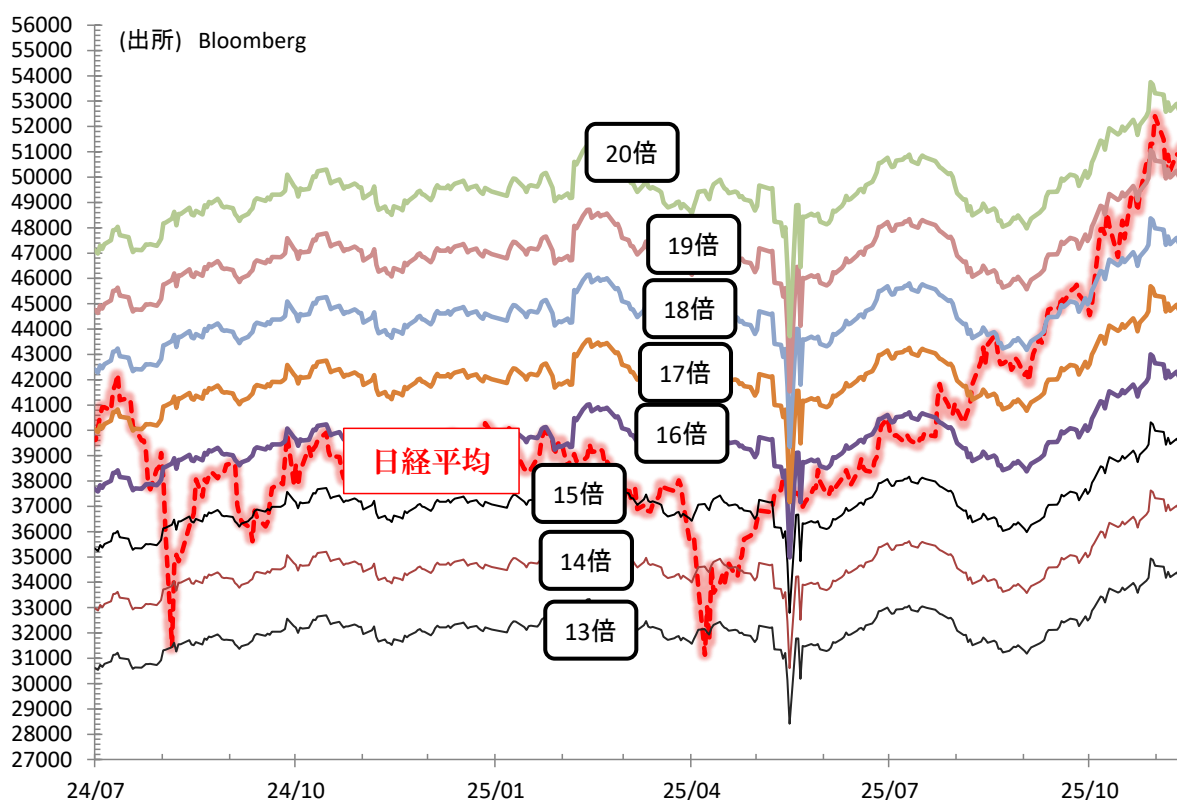
この第(ii)波の上値メドは[51,275 円～51,815 円]—第(ii)波中の a 波と c 波が等倍になる水準を含みます—ですが、このレンジ内に 11 日高値(51,513 円) は入っています。

目先では 50,537 円(11/12 安値) 割れに注目しています。そうすると、49,073 円を目指す流れが強まりそうです。

さらに 49,073 円を一時的にも割り込むと第(iii)波の急落開始の可能性が高まります。この場合、当面 4 万 6500 円～4 万 6000 円を目指す展開が想定されます。

## [予想 PER 別の日経平均水準]

11 月 13 日の日経平均予想 PER は 19.25 倍、予想 EPS は 2663 円です。過去最高の予想 EPS は 2687 円(10/29) です。



## NY ダウ・S&amp;P500



## 【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

11 月 12 日に一時 48,431 ドルと最高値を更新しましたが、この高値更新は他の主要インデックスによって確認されていません(未確認)。

翌 13 日は 800 ドル近い下げを演じました。強気相場は完了したかもしれません。

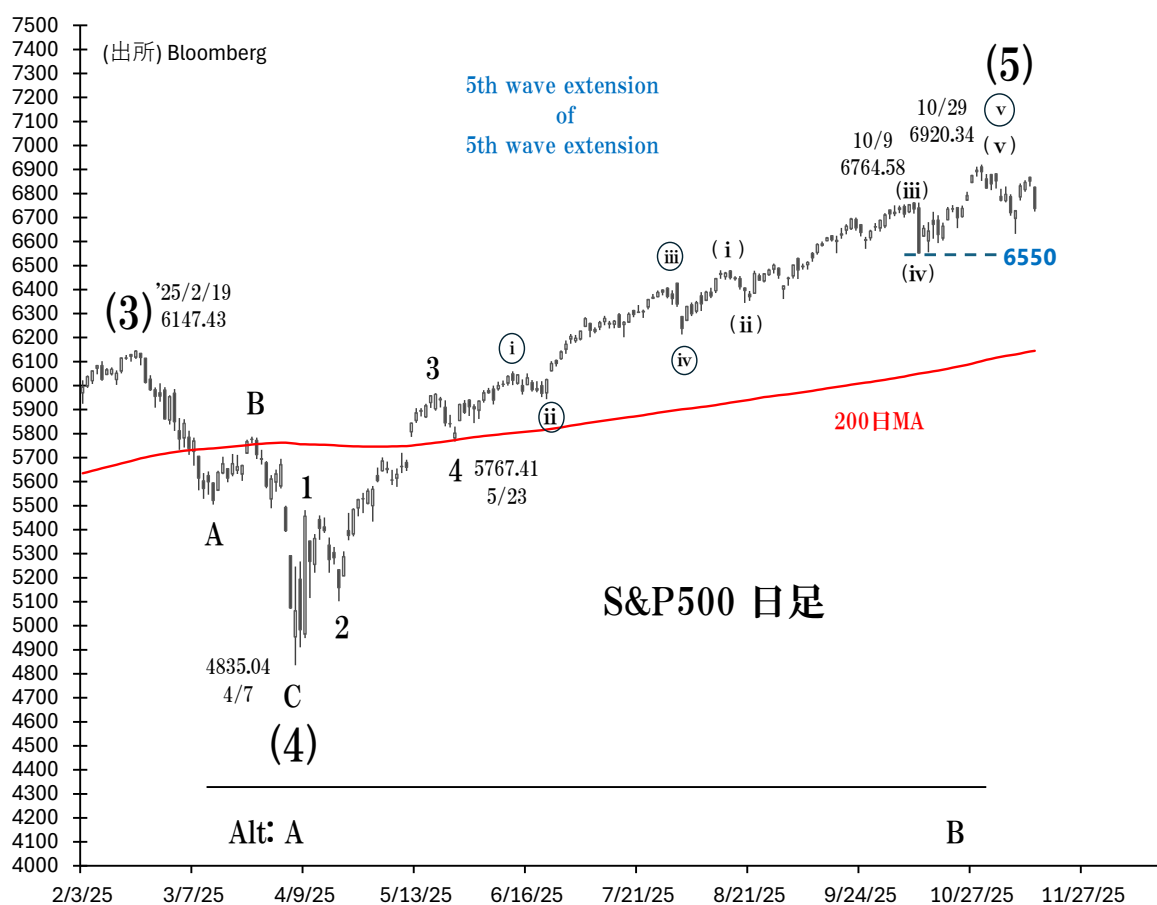
## (プリファード・カウント)

22 年 10 月安値(28,660 ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年 4 月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。

第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から 20% 安となるでしょう。

## (オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における B 波とカウントされます。このシナリオによれば、今後の下げ局面でも、最終的に 4 月安値(36,611 ドル)は維持されます。その後 1~2 年程度のみみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。



### 【S&P500 日足 エリオット波動分析】

6920(10/29 高値)を以て強気相場は終了した可能性があります。

そうであれば、今後辿りそうな展開として以下の 2 通りが考えられます。

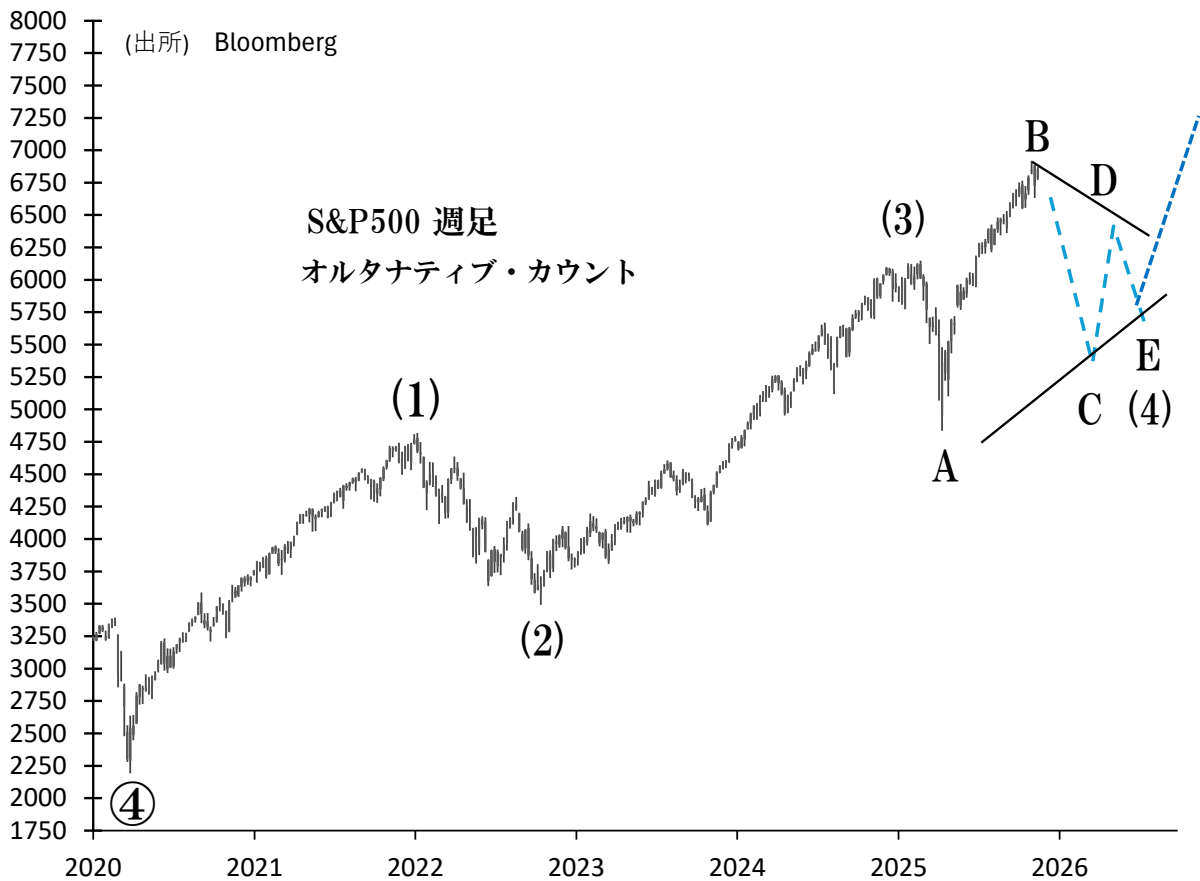
### 【S&P500 長期エリオット波動分析】

#### (プリファード・カウント)

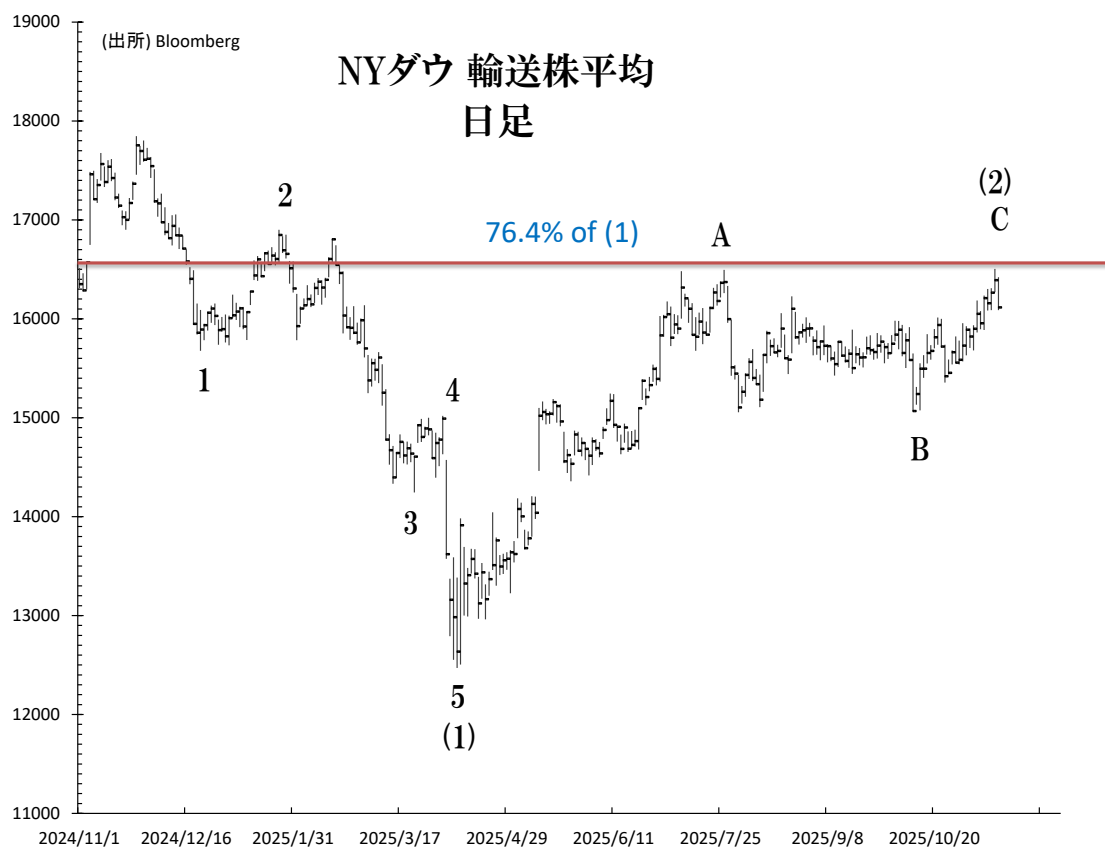
4 月安値(4835) からのインターミディエイト級第(5)波は完了し、数年間にわたる調整となります。その過程で 4 月安値を大きく下回ることが予想されます。

#### (オルタナティブ・カウント)

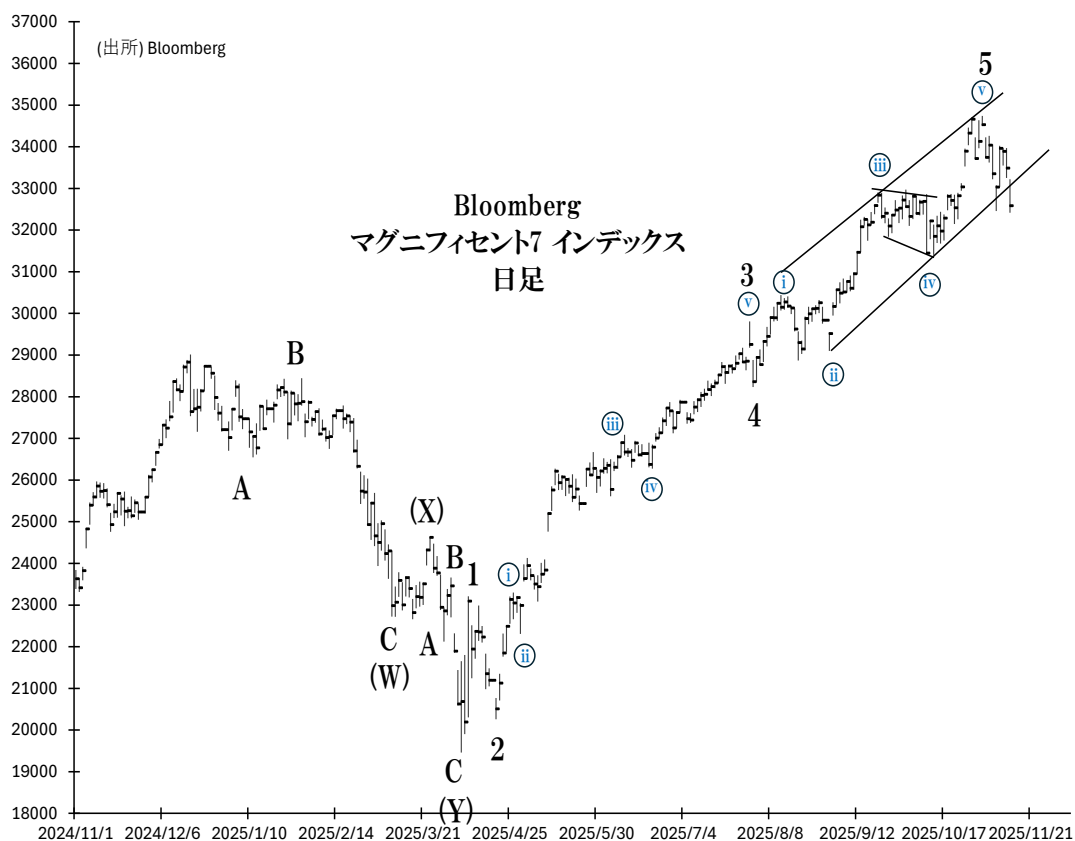
今年 2 月からの第(4)波「ランニング・トライアングル」(A 波～E 波)中、B 波の高値を付けたとみられます (B 波の上げ幅は、A 波の下げ幅に対しおよそ 1.618 です)。この見方通りなら、C 波の下落がスタートしたことになります。C 波は少なくとも A 波と同じ下げ幅になるとみられ、ここからは 5600 処が下値目標として導かれます。

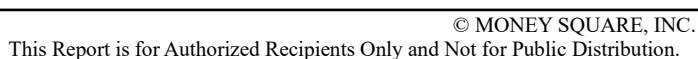


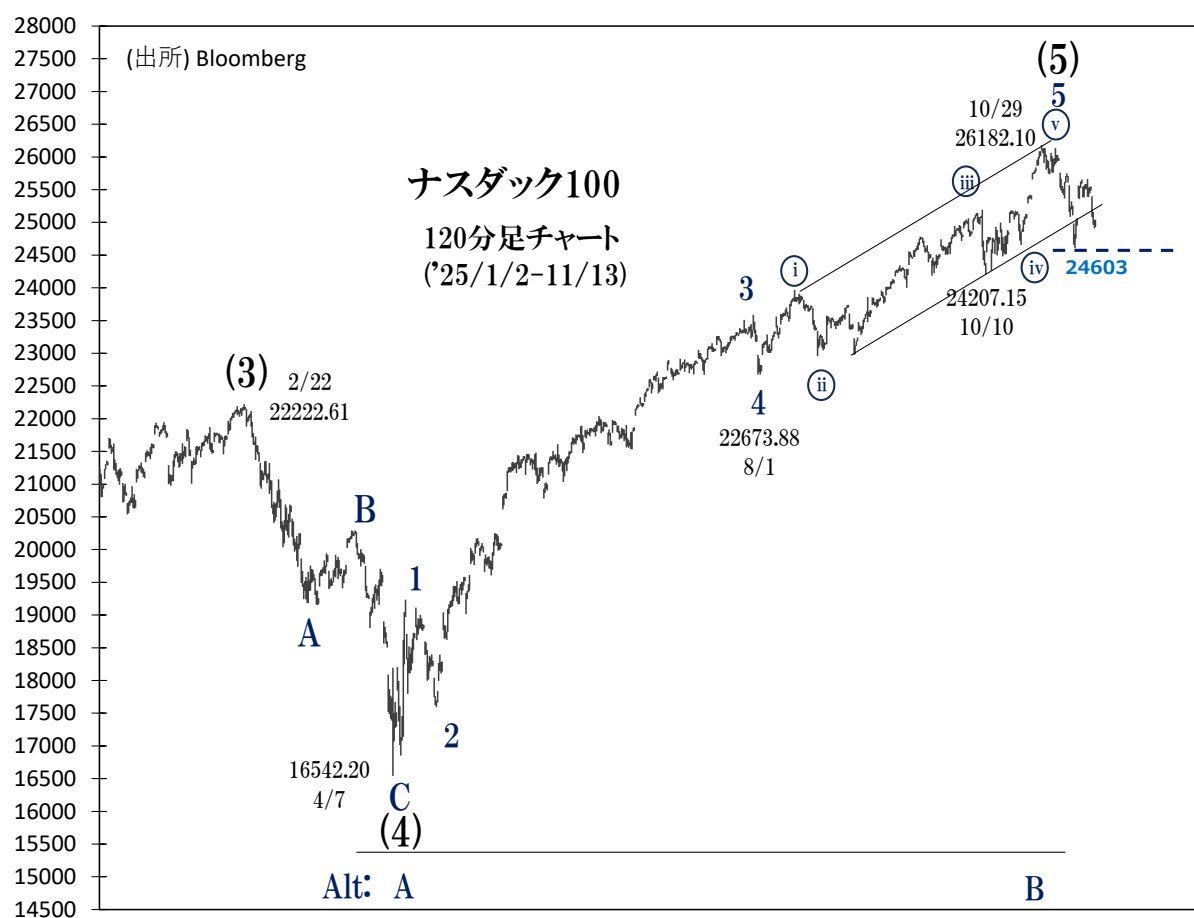
【ダウ輸送株平均】 戻り高値更新に伴い波動カウントを変更



【マグニフィセント7】 10 月下旬以来の水準に下落（下振れリスク高い）







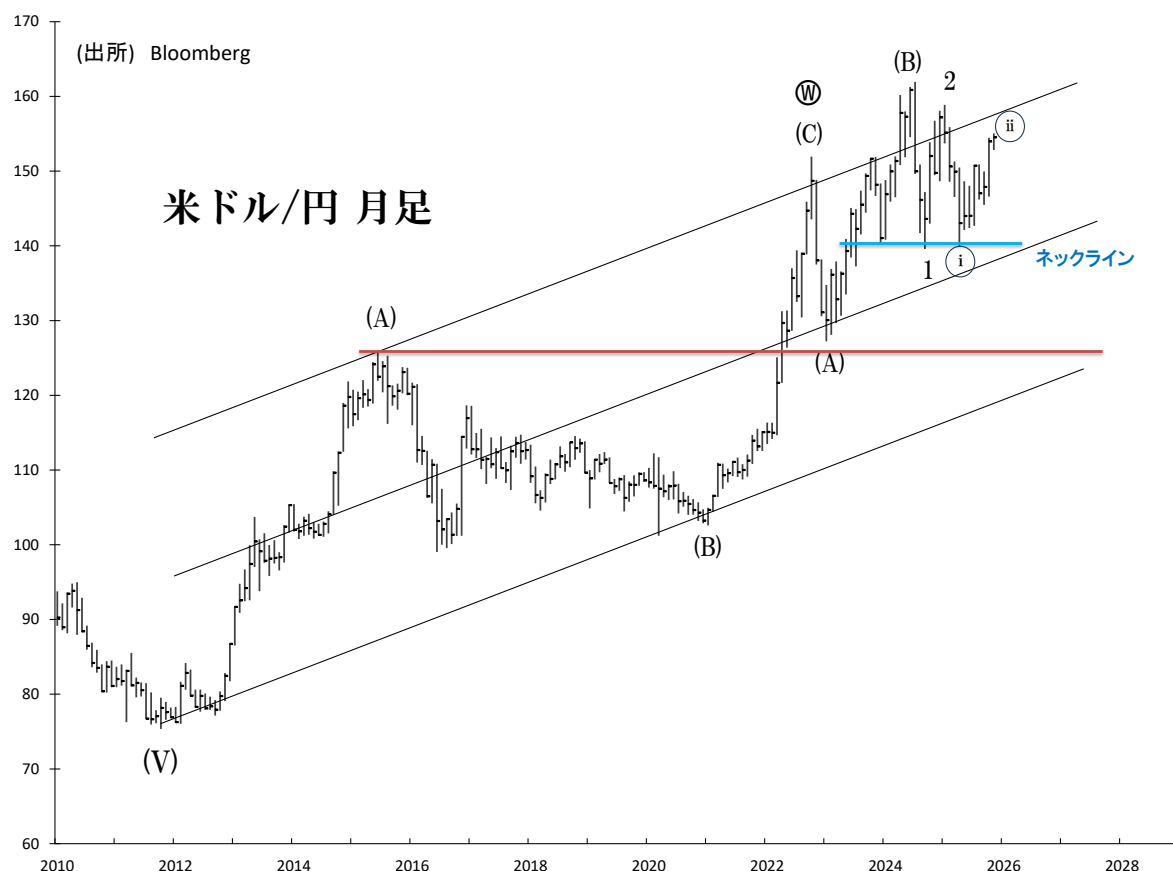
#### 【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

22,673(8/1 安値)からのマイナー級第5波は、26,182(10/29 高値)までに5つの波(マルi波～マルv波)すべてが揃いました。水準的にも、マルi波とマルv波の長さが等倍となる[25,945]を十分に満たしています。

ナスダック 100 は重要な天井を付けた可能性が高い、とみられます。

11月13日には25,000を下回りました。目先の24,603(11/8 安値)を下回ると、次は24,207(10/10 安値)を試すことでしょう。

## 米ドル/円

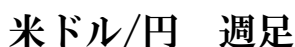


### 【月足・エリオット波動分析】

16 年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は 2028 年 4 月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は 28 年 4 月頃までのどこかの時点で、1 ドル = 125 円 ~ 120 円へのドル安・円高になる可能性をみています。

4 月下旬からドル/円はじり高が続いてきましたが、それも終わりつつあります。これからはドル安・円高トレンドがいつ再開してもおかしくありません。

おそらく 26 年前半にもドル/円は、139 円処のネックラインを明確に割り込むでしょう。それをきっかけに、「サード・オブ・サード」の強いドル安・円高トレンドが鮮明になるでしょう。



今年 1 月 (158.825 円)からは第 3 波によるドル安・円高に当たります。

足元の水準は、筆者の目標水準に既に達し、さらに 2024 年の円買い介入ゾーン(157 円～161 円)に近づいてもいます。今後の円買い介入の有無にかかわらず、マル ii 波完成後のマル iii 波による下落(ドル安・円高)に対する備えが必要といえます。

---

13



### 【日足 エリオット波動分析】

4 月からのマル ii 波によるドル高・円安「トリプル・ジグザグ(w)-(x)-(y)-(x)-(z)」は、足元水準で終了したか、しつつあります。

11 月 12 日は一時 9 カ月ぶりのドル高円安となりました。1 月からの円高に対し、フィボナッチ 78.6%戻り水準[154.770 円]は十分に達成されています。

149.375 円(10/17)からのドル高・円安は、上昇「ダイアゴナル」を形成しています。このパターンは、半年にわたるドル/円修正波の終わりを暗示するとともに、近々円高方向へ急変するポテンシャルを秘めています。

今後 152.80 円を NY 市場の終値で下回ると、マル iii 波によるドル安・円高開始の可能性が高まるでしょう。そうなれば当面は 200 日 MA(147.76 円)、さらに 146.575 円(10/1)を試す展開となりそうです。

### 金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.868 円]です。



## ドルインデックス (ドル指数)



### 【エリオット波動分析】

A 波の最終局面(マル iv 波-マル v 波)と C 波の最終局面は相似しており(フラクタル)、A 波完了後の持続的なドル高(当時は 23 年 7 月中旬～10 月上旬まで 12 週間のドル高でした)が、再現されようとしています。

96.218(9/17)を以て 22 年高値からのジグザグ(A-B-C)は終わり、そこから大きなリバウンド局面が続いています。

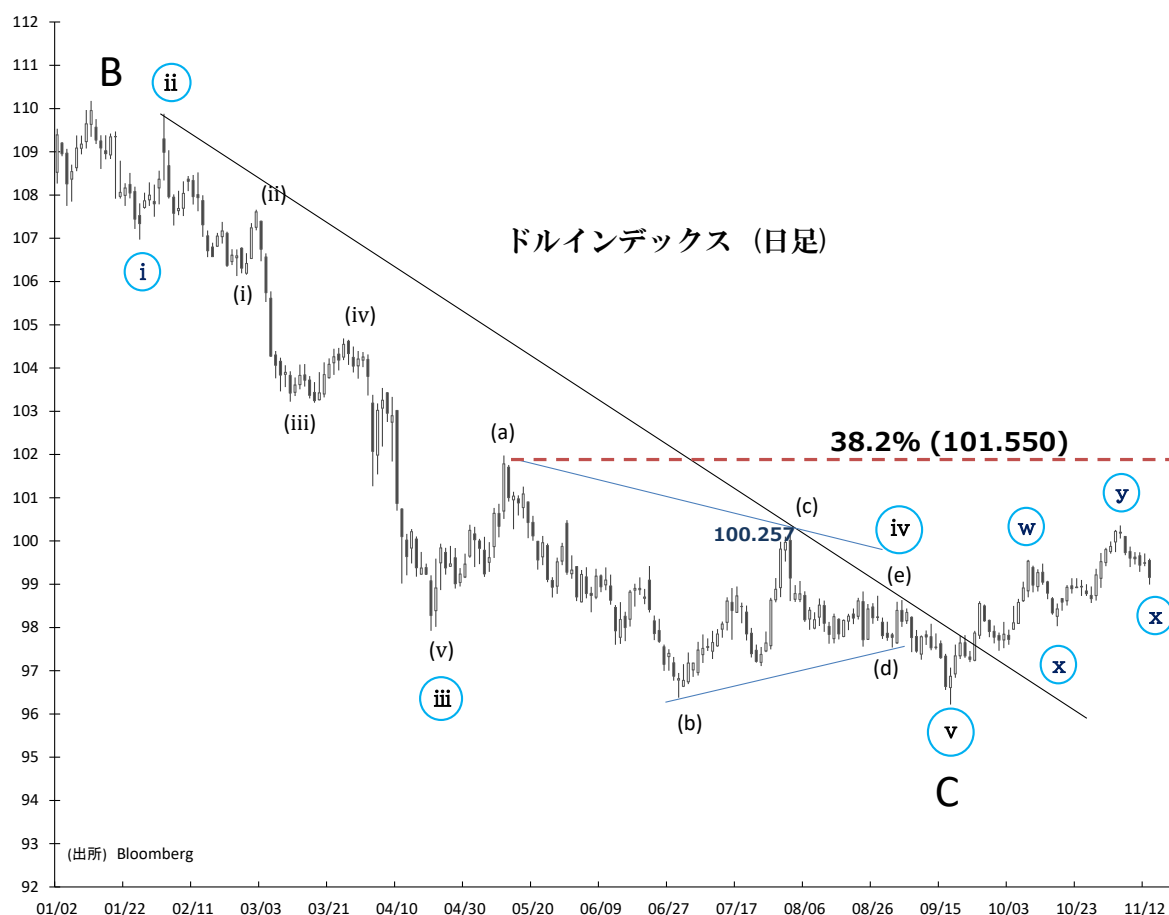
リバウンドはここまでのところ、「ダブル・ジグザグ」のようです。足元の⊗波を経て、次は 3 番目のジグザグにより[101.550]を試す展開かもしれません(リバウンド全体はトリプル・ジグザグ想定)。

**[101.550]**…C 波のドル安に対する 38.2%戻り水準

A 波終了後にみられた持続的なドル高(⊗波)は、A 波のちょうど半分を戻しました。今回も同様なら、遠からず C 波の半値戻り水準**[103.197]**に達する可能性があります。

もっとも長期的にはドル安(⊗波)基調は継続し、2026 年には一段とドル安が強まるでしょう。

筆者は、ドル安⊗波は短くとも 2028 年頃まで続くと考えています。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

## 当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

---

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---